

競技要綱

(1) 競技種目

和装花嫁打掛姿(ヘアはかつら 角隠し不要、筈はプレーンな鬘甲調を使用)
基本的な花嫁着付け技術を基準とする。

(2) 競技時間

メイク・下着から長襦袢の着付けまで …… 40分(監視員立会いの下、控室にて行う)
(かつら下地と装着は別途、監視員立会いの下控室にて行う)
掛下の着付けからポーズ付けまで …… 25分(ステージにて行う)

(3) 競技時間と競技方法

競技は監視員の指示の下、控室にてかつら下地メイクアップ・体型補正・長襦袢の着付けまでを40分間で行い、次にステージにて掛下から打掛までの着付けと、草履を履かせ、正面立ち姿のポーズ付けまでを25分間で行う。

(4) 競技規定細目等 ※違反者は、減点若しくは失格となります

《 競技規定細目 》

- 化粧はその競技時間内に清拭から始める。
- モデルが口紅をひく、つけまつげを付ける、またはそれらの手直しをすること等は禁止。
- モデルがピン取りをすることは可。
- モデルがピンを止めること等は禁止。
- 掛下・打掛の衿綴じは可。
- 帯の縫止めは「ての先」「ての元」ひと針ずつの2ヶ所のみ可。
- 前もって帯に形付けをしたり、帯や着物に印を書いたり糸印を付けておくことは禁止。
- 大会本部から貸し出す衣裳・小物以外の使用は禁止。
(金具付き紐の使用は自由)
- クリップの使用は衿止め・袖止め合わせて7本以内とする。
- ステージ上で衣裳・小物等を衣裳箱の外に出すのは、競技開始後とする。
- 草履は打掛を羽織らせた後で履かせること。
- 首振り枕使用の場合は、控室での競技時間90分間の中で準備する。
- 掛下帯の準備にクリップを使用する時は、「ての先」「ての元」のみ可。
- 帯の幅出しを整え、屏風にたたんで準備しておいてよいが、文庫の羽根の部分は帯幅を開いて平らに整え、いずれも強い折り癖がついていないこととする。
- 掛下文庫の左右の羽根を合わせた時(打掛を羽織る前)、両羽根をクリップで止めることは可。
- 著しく完成された補正用品の使用は禁止。
●通常営業で使用する大きさの補正パッドを、その場で重ねてポディー修正していく。
●補正パッドを事前に重ね、縫い合わせてあるものは認めない。
●キャミソール、胸巻きの使用は可。
但し、キャミソールには綿花等を挟んだり、縫い付けていないこと。
●胸巻きの巻いた終わりを補正バンド(包帯止め型)で止めることは可。
●ウエスト及びヒップの補正は分厚く作られたものは認めない。
●ウエスト及びヒップの補正に単純な紐やテープを縫い付けることは可。
●ウエストの補正とヒップの補正を一緒に作られたものは禁止。
●ヒップの補正の仕上げに布一枚を巻くことは可。
但し、布には綿花等を縫い付けていないこと。
●ヒップの仕上げの布を巻いた終わりを補正バンド(包帯止め型)で止めることは可。
●体型補正のためのタオル・綿花の使用は事前に形付けられていなければ可。
- モデルはポディー修正の時、体に付けた補正パッドを一時押さえることは可。
- モデルは長襦袢・掛下の衿合わせをする時に、下前の衿を一時押さえることは可。
- モデルは掛下・打掛を羽織る時、技術者に預けられた長襦袢・掛下の振りを一時持つことは可。
- 掛下帯の帯結びの時、掛下の振りをモデルの腕に掛けることは可。
- モデル自身が紐・帯締め・帯あげ等を結ぶことは認めない。
但し、紐・帯締め・帯あげ等を一時持つことは可。
- 打掛・ベルト・袖止めの使用は可。
- ポーズ付けの際、掛下の前の裾を整える為にクリップを使用することは禁止。

《 選手の服装・モデル・使用する衣裳等 》

- 選手の服装は白の上衣(襟付き)、黒のスラックスに黒又は白のソックスか、肌色のストッキングを着用。(素足不可)
靴は脱ぎ履きしやすいものに限る。
(ピンヒール・サンダル・ブーツ・スニーカーは禁止)
- モデルは各自同伴のこと。(モデルは学生に限る)
- モデルに使用する下着類・着付け小物・ヘアメイク道具一式は各自持参のこと。
- 衣裳は主催者側が用意し、出場者に貸し出します。申込締切後、衣裳の希望を取り、希望が重複した場合には大会実行委員会が厳正な抽選を行い、決定した衣裳は送料着払いで出場者宛に発送します。
※かつら、筈、下地用品は当日会場にて貸し出します。
※貸し出し物は芸術祭当日、大会終了後控室にて返却すること。
※貸し出し物の破損・紛失があった場合は、その程度により後日、弁償・請求させていただきます。

貸し出し物

打掛、掛下、掛下帯、長襦袢(背紐付き)、水仙衿、半衿、6点セット(帯締め・帯あげ・抱え帯・懐剣・懐紙入れ・末広)、打掛ベルト、草履、伊達巻2本、衿止め4本、袖止め3本、金具付き紐2組(長襦袢用・掛下用)、帯板(前板・後板)、おからげ用紐2本、衣裳敷、かつら、筈、かつら下地(カギピン2本、ネット、はちまき)
※ おしゃれ帯板・衿飾り・刺繍半衿等の使用は禁止。

各自持参物

足袋、肌着、着付け小物(紐類・帯枕・補正用品等)、
卓上鏡(縦35cm×横25cm以内)、ヘアメイク道具一式、モデル用ガウン又は白衣、他必要品一式

《 当日の行動及び禁止事項等 》

- 当日の行動は監視員及び誘導員の指示に従うこと。
- 競技中、選手同士又は観客と会話等をしてはならない。
- 競技中、選手とモデルは必要以上の会話等をしてはならない。
- 用具等の忘れ物があっても大会本部からの貸し出しは一切しない。
- 他の選手に迷惑をかける言動をしたり、監視員の指示に従わない場合は、退場を命じることがある。
- 競技終了後、選手はモデルに一切手を触れてはならない。
- 審査終了までモデル自身が手直しすることも一切認めない。
- 競技終了後、選手は衣裳箱を持ち、一旦ステージから退場する。
- 審査終了後、選手はステージに戻り、モデルに棲をとらせて一緒に退場する。
- 助手の使用は一切認めない。
- 大会当日、控室は選手・モデル以外は一切入室禁止。
(衣裳の搬出入も選手とモデルのみで行う)
- 選手・モデルとも結果発表まで控室で待機すること。
(全員記念撮影あり)
- 結果発表には指示された場所に移動。
- 記念撮影は遠方の方を優先とし、写場に移動する。
(ポーズ付けは担当講師)
- 表彰式の際は、モデル同伴で指示された場所に速やかに移動すること。

※ 貴重品の紛失・盗難につきましては、主催者側では責任を負いかねますので各自充分にご注意下さい。

(5) 審査事項 大会運営規則に基づき委嘱された審査員が、同規則に定められた「職務要綱」に基づき、審査業務を行う。

(6) 監視事項 大会運営規則に基づき委嘱された監視員が、同規則に定められた「職務要綱」に基づき、監視業務を行う。

(7) 採点精算 大会運営規則に定められた「職務要綱」に記載する。

(8) 順位決定 順位の決定は審査員の採点の合計点に基づき、実施する。

(9) 表彰 入賞者の数については、出場選手の数に応じて大会実行委員長が決定する。

(10) コロナ感染防止についての注意事項 別紙参照